

発達の特성에応じて 運動遊びの工夫を行った実践例

学校名 鈴鹿市立神戸幼稚園（三重県）

全校幼児数 62名（男児37名 女児25名）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 059（382）9028 鈴鹿市教育委員会指導課

メールアドレス shido@city.suzuka.lg.jp

1 研究のねらい

運動への意欲をもたせる活動を工夫し、幼児期に望ましい運動習慣と体力を身に付ける

2 研究の概要

課題：本市の小中学生の全国体力・運動能力検査から、特に握力、投げる種目、運動意欲について中学校とも全国平均を下回っている。幼稚園でも運動遊びを好まず疲れやすい幼児が増加している。

課題解決のための検討事項：幼児の実態を把握し、意欲的に体を動かして遊ぶための教材研究と、発達に応じた運動遊びの実践をする。親子で運動する機会を設けて保護者の意識を高める。

○実践プログラムの紹介

□ 発達の特性に応じた遊びの例 幼児の発達特性に応じて集団遊びのねらいを設定し、発展させる
2年保育4歳児

① ブタとオオカミ鬼ごっこ Ver.1 逃げることを楽しむ姿→絵本でイメージを共有→怖がって隠れる、一直線に走るという特性に気付く

② ブタとオオカミ鬼ごっこ Ver.2 お面をつけてなりきる・走れる範囲を決める・安全地帯を設定する→走る方向を意識して視野を広げ、方向転換ができるようになる

③ ダンゴムシ鬼ごっこ 室内で這う動作を取り入れ、雨天時の運動量を確保する

2年保育5歳児

① ブタとオオカミ鬼ごっこ 4歳児クラスで経験した遊びで教師との信頼関係を築き、追いかけられる楽しさを感じる・個々の発達段階を把握し、個に応じたかかわりを工夫する

② しっぽとり Ver.1～取られたら座って待つ～ 走る意欲を増すため、しっぽをつける→鬼ごっこよりスピードと運動量が増した⇔しっぽを取りたい・取られたくない思いが動機になる

③ しっぽとり Ver.2～取られても追いかけて続ける～ 運動量と持久力を増し、最後まで逃げ切ろう、1本でも多くしっぽを取ろうと走り続ける力が身につく

④ しっぽとり Ver.3～2人組&チーム対抗～ しっぽを取る役と守る役で役割分担→相手の動きに合わせる必要があるため、自分の体をコントロールする意識が働く

⑤ 子とろ子とろ～親子で～ 発展的な鬼遊びを保護者が体験することで、活動のねらいに気付く⇔役割を意識して動く難しさや運動量を知る→保護者の意識の変容

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 幼児の走る方向を予測して範囲を設定する。十分に活動できる空間を確保し、同時に活動する人数に配慮する。発達段階に応じた活動範囲の設定を工夫する。

○成果の意義と今後の課題

1 運動遊びに意欲的に取り組み、長時間持続して活動できる体力が身についた。

2 各園の地域性や幼児の実態に応じたプログラム内容について、教材研究を行う。

○ 研究内容

【4歳児 プタとオオカミ鬼ごっこ】

お面をつけてなりきり，教師と走ることを楽しむ



【4歳児 ダングムシ鬼ごっこ】

お話のイメージを共有し，室内での運動量を確保する



【5歳児 しっぽとり Ver.3 ～2人組～】

役割分担と目的意識によって意欲をもたせる



【5歳児 子とろ子とろ ～親子で～】

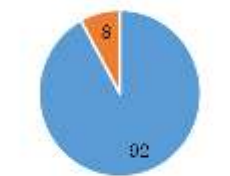
保護者が体験することで，活動のねらいに気付く



【幼児期の運動における保護者意識の変容について】

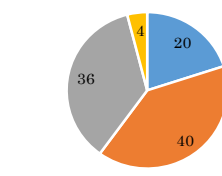
事業推進園4園の保護者にアンケート調査を行い，本事業の取組による変容を検証（単位：％）

お子様は体を動かす遊びが
好きになりましたか（2月）



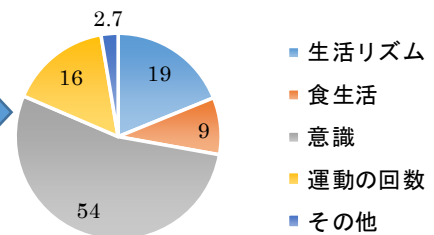
■ はい ■ 特に変わらない

本事業の取組によって，お子様や家
族の方の生活や意識など，何か変
わったことはありますか（2月）



■ 変わった ■ 少し変わった
■ あまり変わらない ■ 全く変わらない

家族の方の変化は？



■ 生活リズム
■ 食生活
■ 意識
■ 運動の回数
■ その他

【運動遊びの工夫と保護者への発信】

幼児の発達特性を掴み，課題に即したねらいの設定・保護者参加型活動の充実

今年度は推進園4園を中心に，毎日一定時間，体を動かして遊ぶ「きらきらタイム」を実施し，実践プログラムの内容について教材研究に取り組んだ。慣れ親しんだ集団遊びも，幼児の課題を的確に掴むことでルールを工夫し，つけたい力を明らかにして成果を得ることができた。次年度も保護者参加型の活動をさらに充実させていきたい。